

重点戦略① サステナブルなモビリティサービスの実現

鉄道事業本部長メッセージ



取締役常務執行役員 鉄道事業本部長
貞苅 路也

当社グループは、コロナ禍の影響を大きく受けた鉄道事業のコスト削減策として、BPR (Business Process Re-engineering) による固定費の削減に取り組んでまいりました。また、2023年よりさらなる事業構造改革の深度化を目指して「未来鉄道プロジェクト」をスタートさせ、技術革新等によって設備のスリム化やトップラインの向上を図り、より安全に、より低コストで鉄道事業を運営する体制構築に挑戦しています。

一方で、当社グループを取り巻く経営環境は、人口減少・少子高齢化に伴う人手不足・人件費高騰に加え、インフレの急激な進行や金利の上昇など不安定な状況にあります。このような中、安全やサービスの維持向上、老朽化した車両・設備の更新や長寿命化、激甚化する災害やカーボンニュートラル等に対応する設備投資や修繕等に必要資金の安定的確保や、働き手を安定的に確保すべく待遇や職場環境の改善を図ることを目的に、2025年4月には29年ぶりの運賃改定を実施しました。

今後も、引き続き厳しい経営環境が続くと想定される中、安定したモビリティサービスを提供していくために、以下の2点に特に力を入れて取り組んでまいります。

① 「安全」 何よりも安全を最優先に

「安全」をつくるのが、当社グループの最優先事項であり、すべての事業において「安全」を最優先する風土を築き上げていきます。

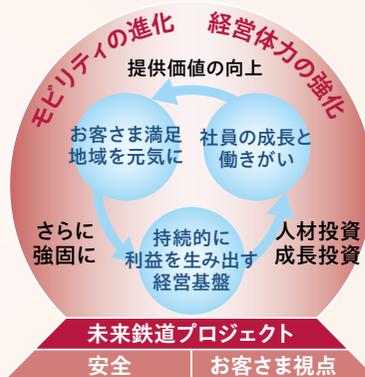
② 「お客さま満足」 お客さま視点で「安心」と「わくわく」を

安全を最優先にしながら、常にお客さま視点でサービスのあり方を考え、安心・快適な日常とわくわくする非日常をつくり続けていきます。

成長戦略(未来鉄道の取り組み)

「未来鉄道プロジェクト」では、BPRで培ったスリムな鉄道事業を起点として、モビリティの進化と経営体力の強化に取り組み、九州のまちづくりを牽引する「未来の鉄道」をつくることを目指しています。プロジェクトの完遂に向けて、これから実装していく施策を確実なものとするために部署を超えたクロスファンクショナルチームで鉄道の持つ強みや資産を活かした収益機会の獲得と技術開発や新技術を活用したイノベーション創出に取り組めます。

鉄道の価値向上と成長の好循環



未来鉄道プロジェクトが目指すゴール

- スリムな鉄道事業を起点として、DXの推進や技術革新によって固定費の削減やさらなる収入の確保に取り組むことで、2030年度までに140億円以上の収支改善を目指す
- 安全・安心の追求とお客さま視点を根幹にプロジェクトを推進し、鉄道の価値向上と成長の好循環を実現する

オープンイノベーションを活用した知の探索と新たな価値の共創

- 技術革新や市場環境の変化が急速に進む中、自社内のリソースのみならず、社外の知識や技術を取り入れることで新たなシナジーの創出を目指す
- 未来鉄道プロジェクトにおける施策の実装確度を高め、スピードアップを図る

地域との共創

当社グループでは、観光列車 (D&S列車) の運行やウォーキングイベントの実施など、地域の方々と連携し地域の元気づくりに取り組んでいます。



D&S列車(特急 かんぱち・いちろく)



JR九州ウォーキング

重点戦略① サステナブルなモビリティサービスの実現

これまでの取り組み

■ 自動運転

2024年3月16日よりGOA[※] 2.5自動運転を開始し、香椎線全線（西戸崎駅～宇美駅間：25.4km）で運行する全列車において、自動運転（運転士乗務含む）を実施しています。

また、鹿児島本線では、自動列車運転支援装置（GOA2.0）の営業列車における実証実験を開始しています。

※ GOA：Grade of Automation



■ 多機能検測車「BIG EYE」の開発

より安全で効率的なメンテナンスの実現を目的に多機能検測車「BIG EYE」を開発し、データ活用を進めています。

「軌道検測装置」、「部材検査支援カメラ装置」、「建築限界測定装置」を搭載し、CBM[※]化によるタイムリーな軌道修繕計画、設備不良箇所の自動抽出、測定センサーにより取得した点群データによる管理を進めています。

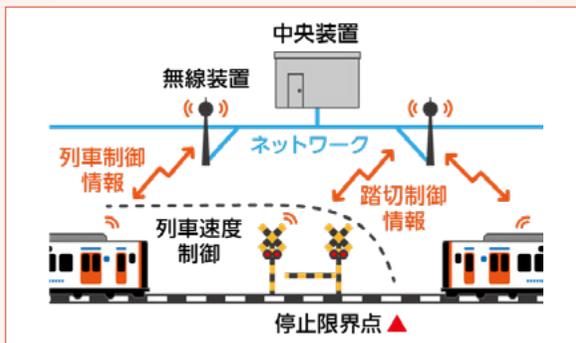
※ CBM：(Condition Based Maintenance)



今後の取り組み

■ 無線式列車制御

汎用無線通信を活用した列車制御を導入することで、設備のスリム化や信号の車内現示などによる安全性の向上を図るとともに、将来的には柔軟なダイヤの提供により、利便性向上を目指します。



■ 列車の運行情報提供サービスの拡充

発車標の大型液晶パネル化等を実施し、利便性の向上を図ります。さらに、列車のリアルタイムな運行情報や位置情報をPCやスマートフォンでいつでもどこでも確認することができるサービスの実施についても検討しています。

鹿兒島本線 久留米・羽犬塚方面	Kagoshima Line For Kurume,Hainuzuka		のりば Track
快速 Rapid	8	▲13:27	荒尾 Arao
区間快速 Regional Rapid	8	▲13:27	久留米 Kurume
特急 Ltd. Exp.	8	13:27	ハウステンボスみどりリレーかもめ17号 Huis ten Bosch Midori Relaykamekome 17 ハウステンボス・佐賀保 (長崎) Huis ten Bosch Sasebo (Nagasaki)
特急 Ltd. Exp.	8	13:27	ハウステンボスみどりリレーかもめ17号 Huis ten Bosch Midori Relaykamekome 17 ハウステンボス・佐賀保 (長崎) Huis ten Bosch Sasebo (Nagasaki)

■ 次世代車両の新製

国鉄時代に製作された車両はすでに35年以上が経過していることから、環境性能が大幅に向上した次世代車両を順次導入し、安全・安心で快適な輸送サービスの提供を実現していきます。



■ デジタルサービスの拡充

2024年9月に導入したチケットレスサービスのエリア拡大を進めるとともに、モバイルICサービスの導入により、場所を問わずに定期券がお買い求めいただけるなどのデジタルサービスを拡充することにより、お客さまの利便性向上を図ります。

2024年9月

チケットレスサービス

ネット予約マ
QRチケット

+

これから

モバイルICサービス

※ サービス開始時期：2027年春（予定）